

令和6年度 大阪府立箕面支援学校 第2回「学校運営協議会」議事録

日 時	令和6年11月22日（金） 10：00～11：40（本校校長室にて）			
出席者	協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	山本 智子	皇學館大学 教育学部 准教授	杉本 幸一	校長
	阿久根 賢一	社会福祉法人 福祥福祉会 理事長	稲野 早苗	教頭
	高田 浩行	社会福祉法人 川西市社会福祉協議会事務局 局長	吉村 晋治	教頭
	青島 薫	吹田市立こども発達支援センター わかたけ園 園長	切通 圭介	事務長
	千馬 外代美	本校後援会 会長	藤嶋 耕治	首席（小学部付）
	山下 志保	本校保護者（PTA会長）	宮脇 敦子	首席（中学部付）
			竹中 俊	中学部主事
			丹羽 はるか	高等部主事
			北村 直樹	首席（高等部付） 事務局長
			李 容司	首席 養護教諭
欠席者			長峰 祐介	小学部主事
おもな テーマ	「令和6年度 学校経営計画について（進捗状況）」			
協議内容 の概略	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校長挨拶 2. 創立40周年記念行事について 3. 令和6年度学校経営計画について 4. 令和7年度使用教科用図書について 5. 事務局より諸連絡 6. 学校長挨拶 <p style="margin-top: 10px;">* 中学部 A グループ どこでもカフェ（保健室前にて）</p>			

<p>協議内容 質疑応答 ・ 提言等</p>	<p>【開会、校長挨拶】</p> <p>先週、もみじフェスタも開催され、現在は日常の授業に戻りつつあります。</p> <p>別件で先日、退職の校長会に参加し、箕面養護・支援学校の歴代校長にお会いでき、40周年記念行事の説明と現在の近況を共有してきました。</p> <p>本日も屈託のないご意見、ご助言などよろしく願いいたします。</p> <p>【40周年記念行事について】</p> <p>〈北村首席〉</p> <p>今回のテーマは「感謝・感動・伝える・創る」で決定した。これは児童生徒会で行事に関する様々なワードを出し、そこから様々な組み合わせを児童生徒、教員で考え、最終的には児童生徒会で承認をされ決定した。</p> <p>当日は様々なイベントを考えているが、それぞれの進捗状況について報告する。</p> <p>〈宮脇首席：スヌーズレン〉</p> <p>体育館全体でスヌーズレンルームのような空間を作る予定。スヌーズレンルームの物品では足りないので、企業からレンタルをしたり、豊泉家様から多大な寄贈のご協力があったりして、よりよい空間を作ることができそうである。寄贈に関して、学校側の理想とする空間をお伝えしたところ、すべてかなえていただき、本当に感謝している。</p> <p>体育館のアレンジとして中心に大きな木を作るが、児童生徒たちが葉っぱを作成する予定となっている。</p> <p>〈北村首席：自立活動機器紹介〉</p> <p>この10年でパワー自活を実施し、それ以外にも様々な機器を使用して教育活動を行ってきた。自立活動室では、その機器を説明したり、体験したりできるブースを設ける。説明は自立活動教諭が担当する予定となっている。</p> <p>〈北村首席：ICT 機器紹介〉</p> <p>この10年で本校ではICTを使用した授業も充実してきた。それらの紹介、体験ブースも設ける予定となっている。今回、PTAから「デジリハ」も寄贈していただき、その紹介、体験も行う。</p> <p>〈北村首席：どこでもカフェ〉</p> <p>どこでもカフェは参観週間や納涼大会で出店をしているが、実際、児童生徒がホットコーヒーを飲むことができない。それを今回は保護者や来賓へはホットコーヒーの提供、児童生徒には数種類の缶ジュースから好きなものを選び提供する。店員だけでなく、お客様としても楽しめることを目的としている。</p> <p>〈李首席：高等部イベント〉</p> <p>高等部各学年で学期末などに、歌を歌ったり、楽器演奏をしたり、けん玉をしたりとお楽しみ会を行うが、その延長でイベントを行う学年もあれば、もみじフェスタで行った演目を切り取り、披露をする学年もある。</p> <p>もみじフェスタ当日は少し離れたところからの観覧なので、高等部イベントでは、小道具や衣装、表情など近くで感じることができ、楽しめるのではないかと考えている。</p> <p>〈北村首席：作品展〉</p> <p>40周年記念行事の週は参観週間となっている。今回は作品ごとに説明を明記する予定となっている。来賓の方々も見学していただければと思う。</p>
------------------------------------	---

〈藤嶋首席：記念品〉

令和元年の卒業生で画家としても個展を開き活動をしている方がいる。その方に本校の校舎を描いていただき、それをクリアファイル印刷し配付する。原稿もできあがり、発注をかけているところである。当日、本人が40周年記念行事に参加されるのであれば、感想などを伝えていただけるとありがたい。

【令和6年度学校経営計画について】

〈杉本校長〉

学校経営計画の内容は文章が長くなったり、項目が多くなったりして、読みづらい印象がある。そこで、教職員、保護者などが身近なものとして感じられるように、各首席、分掌長などを中心にキャッチフレーズを項目ごとに作成する検討をしている。来年度からはそのキャッチフレーズが入り、学校経営計画が作成されていく予定となっている。

〈杉本校長〉

中期的目標（*項目ごとに説明）

1（1）キャリア教育の推進

キャリア教育は各学部において取り組まれている。

どこでもカフェについて、小学部は、6月の授業参観で保護者へコーヒーを提供した。中学部2年生は、10月25日に箕面市にあるライフプラザという校外の施設で出店をし、コーヒーの提供を行った。1杯100円で75杯販売することができた。高等部は、納涼大会で飲料販売をし、店員としてジュースの販売を行った。

その他、共同学習では、全員対面式で交流する機会を設けた。今後は学部・学年ごとの交流の機会を設けていく予定となっている。

（2）個別の教育支援計画の活用の充実

個別の教育支援計画を作成するにあたり、教育上の願いやどのような大人になってもらいたいなど、保護者と担任で話し合いながら進めている。特に高等部は教育の出口ということで、進路先への情報共有としても活用している。

○質疑・応答

〈高田委員〉

個別の教育支援計画について。福祉の業界では障がい、認知状態の程度にかかわらず「自己決定支援」が支援方法となっている。これは、各個人の思いをしっかりと汲み取り、めざしたい自分へ支援していくことを目的としている。ただ、思いを出しにくい方もおられると思うが、教育支援計画の中ではどのように汲み取っているのか聞かせていただきたい。

〈丹羽高等部主事〉

児童生徒の実態も様々であるが、表出が難しい児童生徒は日々の関わりの中で、唇や舌、目線の動きなどで気持ちを汲み取るようにしている。

〈杉本校長〉

教師と児童生徒の関わりの中で、今の気持ちなどを選択させている場面をよく見かける。「選べる」という機会を大事にして児童生徒の気持ちを大切にしている。

〈山本委員長〉

活動の流れがうまくいってれば、児童生徒の気持ちは快の状態になる。先生方はその状態も見て、活動内容を修正しながら学びを深めているのではないか。

〈杉本校長〉

普段から児童生徒と深く関わることは大切だと思う。1年間、関わることは財産となる。児童生徒の気持ちを汲み取れるようになるのはその部分が大きい。

〈千馬委員〉

個別の教育支援計画について福祉サービスを受ける際に、相談支援員さんと年3回ほど面談を行うが、その中に「親の思い」と「子どもの思い」を聞くことがある。それに伴って親としては今度どのような生活を送らせたいのか、この子にどうなってほしいのか、どのようなサービスが必要かも聞き取りがある。学校でも保護者からの「ここまで向上してもらいたい」などの聞き取りも今後は必要となってくるのではないか。

〈杉本校長〉

2 (1) 新学習指導要領に準拠した教育課程の編成に基づく授業実践への取組み

外部講師をお招きして、自分からの表現発信が難しい児童生徒の評価の観点について講演をしていただいた。自発的な動きが少ない児童生徒の評価について悩んでいる教師もいたので、講師の方から丁寧な説明を受けることができた。

(2) 多様化する児童生徒への支援における教員の専門性や授業力の向上

府全体で行われる研修と校内研修とで専門性や授業力向上を図っている。例えば、校内研修では、心肺蘇生法や緊急時シミュレーション、人権、教育課程、ICTの研修などを行っている。その他には、メンタルヘルスの研修も実施しており、多岐にわたっている。ICTでは昨年度、PTAよりVOCAや3Dプリンターの寄贈もしていただいた。また、今年度は、本校創立40周年に伴い、デジリハを寄贈していただいた。ICTの発展スピードは大変早く、知らないうちに新しいものが開発されているので、それらを活用して児童生徒が少しでも表現できる場が増えたらと思っている。

(3) 教員の働き方改革や業務軽減を進めながら効率的・機能的な運営組織の構築

保護者へプリントの配付を減らし、マチコミメールを活用しながらほぼ、ペーパーレスとなってきている。実際に、9月までに79回の配信を行っている。8月を抜いた1か月で平均15～6回、2日に1回のペースで配信を行っているので、学校からは情報提供は丁寧に行われているのではないかと考えられる。

また、水曜日の一斉退庁日も教員の中で定着しつつある。

その他には、保護者からの児童生徒の欠席連絡などもGoogle foamにて伝えられるようになった。欠席理由も含めて教員で共有できる環境を設定することで、働き方改革を行っている。

○質疑・応答

〈山本委員長〉

計画通り進んでいると考えられる。このまま進めてほしい。

3 (1) 情報発信の充実をめざす

ホームページにて情報を発信している。授業内容の公開は現在、昨年度と同じ5回。行事の様子への公開は4回行っている。校長ブログは現在、81回情報発信している。

(2) 地域における支援教育の専門性向上のためのセンター的機能の充実

4月から9月までの地域からの相談件数は小学校18件、中学校5件、幼稚園19件となっている。校内研修の依頼は小学校6件、中学校4件、幼稚園1件となっている。また、コーディネーターに対する研修講師依頼が4件となっている。コーディネーターへの研修依頼が増加傾向である。箕面市でコーディネーターのチームを作っているとのことで、そちらへの支援も行っている。

その他に、本校が開設している相談支援ルームへの相談件数は中学校2件、保護者2件、校内教員の相談件数が5件となっている。

(3) 校内支援の充実

初任者へ首席や指導教諭を中心に「スタートアップ講座」を開設し、校内初任者研修を年間9回実施する予定となっている。

福祉医療人材活用でPTやOTの方が来られて、児童生徒の様子への助言をいただいている。また、ケースによってはSTやICT関係の方の活用をすることもある。

(4) 進路指導の充実

豊中支援学校と協力をしながら、日中活動事業所相談・情報交換会を5月に開催した。

○質疑・応答

〈山本委員長〉

中学部から何か補足などあるか。

〈竹中中学部主事〉

今年度から高等部への出願方法がオンラインとなった。今まで紙面での出願であったが、今年度からは保護者がパソコンやスマートフォンで出願をすることとなる。学校側も初めてのことなので、いろいろなことを想定しながら、出願ができたらと思っている。二重、三重のチェックを経て出願をするので、抜け落ちなどはないかと考えている。

〈山本委員長〉

高等部から何かあれば伝えてほしい。

〈丹羽高等部主事〉

今年度の進路指導状況について。高等部3年生は33名在籍をしているが、生活介護事業所が17名、自立支援事業所が6名、就労移行支援事業所1名、就労移行支援事業所B型が5名、能力開発校を受験する生徒が2名となっている。また、未定は1名。自営の会社で働く生徒が1名となっている。

2年生は体験実習が始まった。

〈山本委員長〉

小学部の様子を伝えてほしい。

〈藤嶋首席〉

小学部は全体の人数が増加傾向にある。今年度は62名在籍している。以前は30名ほどであった。それに伴い、常時人工呼吸器の児童も増えてきて、電源の確保や教室の活動スペース確保などの問題が出てきている。

保護者の付き添い期間についても、なるべく短い期間で終わっており、通学に関しても府の事業である通学支援事業を利用して登校もできている。

〈山本委員長〉

医療的ケアに関わる部分ではどうか。

〈李首席〉

低学年になるほど人工呼吸器を使っている児童は多い。ただ、呼吸器だけでなく医療的ケアの件数も多い。現在、保健室にはたくさんの酸素ボンベを保管しているが、高等部の生徒が卒業をしても、減ることはない。また、看護師の人数も12年前は6名での体制だったが、現在は12～3名の体制で運営している。対象の児童生徒が増えているので、各所との連携が難しくなってきた部分もあるので、今後は見直しが必要となる可能性もある。

〈山本委員長〉

見直しも含めて視野に入れていることは安心材料になる。

〈山本委員長〉

スヌーズレンルーム関係で何かあるか。

〈宮脇首席〉

今回PTAから寄贈いただいたソファは以前、レンタルで使用をした時に、児童生徒への効果が大きく、ぜひとも本校でも常設したい希望があり、それが叶い、大変うれしく思う。40周年記念行事、公開授業、福祉医療関係者学校見学会などでも紹介をし、たくさんの児童生徒や外部の方々へも体験していただければと考えている。

豊泉家様からもたくさん、ご寄贈いただき、また、ラックヘルスケア様、パナソニック様からも40周年記念行事ではご協力をいただき、大きなスペースでスヌーズレンができたらと思っている。

〈山本委員長〉

スヌーズレンの教育的効果とは何か。

〈宮脇首席〉

例えば、排尿、排便が出にくい児童生徒が、スヌーズレンルームに入ると出ることがある。身体はもちろんリラクゼーション効果も高いと考えている。

〈山本委員長〉

ストレスfulになりがちな現代にとって、実は我々が気付いていない児童生徒の課題もあるのかもしれないので、把握していただければと思う。

〈青島委員〉

スヌーズレンルームについて質問。スヌーズレンルームを設置している事業所を見学して、本園でも設置したい気持ちはあるが、金銭面で難しいところがある。始めるにあたり、何か工夫できることがあれば教えてほしい。

〈宮脇首席〉

スヌーズレンルームも100円均一で揃えられるものもある。このあと、時間があれば実際に見学をしてほしい。

〈藤嶋首席〉

現在はスヌーズレンルームではなく、センサリー（感覚に訴える）ルームと呼ぶ。パナソニック様が力を入れている事業でイベントなども行っている。支援の必要な児童生徒以

外にも乳幼児、幼稚園生などに対してもイベントをされている。

〈山本委員長〉

箕面支援学校はスヌーズレンルーム、センサリールームは先進校になるのか。

〈宮脇首席〉

インターネットで「支援学校 スヌーズレン」で検索をすると箕面支援学校が出てくる。

〈藤嶋首席〉

アロマをたいているので、生活課程の生徒でメンタルがしんどくなってきた時に、少しだけ、その部屋に入ることもある。

〈千馬委員〉

ICT 関係が苦手な保護者もおられると思うが、マチコミメールでの情報提供はすべての保護者対象か。難しい保護者には別の対応をされているのか。

〈稲野教頭〉

必要な方には紙面で配ることもある。

〈千馬委員〉

オンラインを進めるにあたり、先ほど出願の件もあったが、先生方の負担になることのないようにしてもらいたい。

〈阿久根副委員長〉

もし、デジタルが苦手意識のある先生がおられても慣れてきたらよい部分を感じ、働き方改革が進むケースも多い。

〈杉本校長〉

オンライン出願に関して、中学校側の方が不安はあるのではないか。保護者や生徒への説明や複数回のチェックなどが必要かと推測される。

〈吉村教頭〉

二重、三重のチェックは必要となる。本校側は教育相談を行い、事前にある程度出願される生徒の情報を得ているので、確認をしながら実施していく。また、担当の教員が一人で対応することのないように複数人で確認を行う。

従来の習慣からの変更の時は一番不安が増すし、ストレスにもなるかと思うが、安全に実施していく。

〈杉本校長〉

4 (1) 人権教育の総合的な推進

夏に西成高等学校より講師をお招きし、「西成差別」についての講演やワークショップを行った。

本校では、いじめに関するアンケートを実施している。小学部、中学部からのいじめ案件はないが、高等部の生活課程になると、「友だちから言われた言葉で嫌な気持ちになった。」などの内容も吸い上げている。それをいじめ対策委員会にて報告をし、対応について協議を行っている。

近隣の小学校、中学校から障がい理解の内容で出前授業を実施している。4月から9月の間で小学校5校6回実施、中学校は1校1回実施している。今までは首席1名で実施していたが、現在は小学部の教員も同行して実施できる教員を増やしているところである。

(2) 大規模災害、防犯にかかる具体的対応策の強化・推進

5月にPTA安全部の協力のもと、避難訓練と引き渡し訓練を1日で行う複合訓練を実施した。また、11月26日にはPTA教養部と連携しながら防災学習を計画している。これは防災時の福祉チーム「D-WAT」と大阪府教育委員会、箕面市市民安全政策室をお招きし、保護者向けの校内研修となっている。

防犯研修は4月4日に実施した。ナイフを持った不審者が校内におり、どのように対応するのかという研修であった。児童生徒も含めて研修を行ったこともあるが、今年度は教員のみの実施としている。

(3) 医療的ケアを必要とする児童生徒の安全確保の推進

対象の児童生徒が増加しているため、保健室、看護師、担任の連絡方法はトランシーバーを活用している。また、医療福祉関係機関の見学会も年間4回程計画をしている。60名ほどが見学する。

医療的ケアのヒヤリハット報告は毎月1回実施しており、事例について積み重ねているところである。

○質疑・応答

特になし

【令和7年度使用教科用図書について】

〈北村首席〉

来年度の選定は終了しているが、大阪府教育委員会からの採択待ちの状況である。例年11月下旬から12月上旬に採択されるので、それを待っている状況である。例年と大きな変更点は特になし。

【各委員より】

〈阿久根副委員長〉

様々な取り組みを横断的に実施できればと思う。例えば、「開かれた学校づくり」では、どこでもカフェと相談ルームを掛け合わせるのも一つの方法なのかなと思った。

専門性と授業力の向上では、40周年記念行事の記念品で卒業生の作品が使われるとのことなので、目の前の成果だけでなく、中長期的な評価も教育の観点では重要なのではないかと感じた。そういった意味でも、卒業生がどのような活躍をしているのかも評価の視点としては大切ではないだろうか。

また、揺れを感じながら感覚を養う「ハンギングチェア」を海外で見た。不穩になっている利用者がハンギングチェアに5～15分座することで、自分をコントロールできるようになるとのことで、スヌーズレンルームと合わせてこのような場であればよいと思う。

〈高田委員〉

地域福祉の分野でも家庭、学校、職場、事業所以外の「居場所」は重要なワードとなっている。障がいの有無に関わらず、安心して過ごせる場所が求められている。現在、ヤングケアラーの事象を対応している。その生徒はこども食堂の方々と話をすることが、楽しくてそこが居場所となっている。そこで初めて心中を語る。学校でもそのような場所があ

るのはとても大切である。

また、家庭に課題がある場合、それを放置したまま卒業をすると長い将来の中で必ず、課題を抱える。学校と福祉で情報を共有できればと思う。

〈青島委員〉

スヌーズレンルームのことを聞いてよかった。今後は研修について深く聞いてみたい。来年度は本園から7名が入学する。また情報共有ができればと思う。

〈千馬委員〉

防災について。事業所で箕面支援学校の防災訓練、防災物品などについて伝えた。災害時は、第一次避難所に行ってから福祉避難所への流れとなっているが、直接福祉避難所に行きたいという希望も多い。

後援会の交流会が11月12日に実施された。役員以外に3名来られ、近況や困っていることの話などをした。また、12月14日に同窓会運営の見直しの話し合いがあり、今後の後援会の在り方などの話も行った。

創立40周年に伴い、30万円の寄付を行う。

〈切通事務長〉

まだ、担当とも相談はできていないが、寄付については現金よりも学校で必要な物品の方がありがたい。

〈山下委員〉

先日、ライフプラザにてどこでもカフェが実施され、実際に客として参加させてもらった。校内での出店ではなく、地域の人々とも触れ合える校外での出店はありがたい。

創立40周年に伴い、PTAからも寄付をさせていただいた。施設の充実を図ることができるといい機会となった。

〈山本委員長〉

年々、学校教育が充実しているのが実感できた。先生方の努力の結果であろう。いろいろな分野での先進を維持するのは大変かと思うが、お互いに協力をしながら継続をしていただきたい。

高田委員もおしゃっていたが、支援は保護者にも必要な部分もある。乳幼児期・幼少期から情報をキャッチし、福祉などと連携をしながら、様々な問題を解決していってもらいたい。

【校長より】

毎回、話が途切れることなく、貴重なご意見をいただき本当に感謝の気持ちでいっぱいです。次回1月もありますので、よろしく願いいたします。